

稿本近代文学

第46集

- 鉄幹と新国文運動……………堀下 翔 …… 1
- 「婦系図」の再生……………植田 理子 …… 13
—鏡花劇の一側面として—
- 芥川龍之介「手帳七」考続貂……………章 瑋 …… 43
附図版・翻刻・略注・筆記用具一覧表
—普及版『芥川龍之介全集』における「手帳より」の編纂事情と堀辰雄—
- 川端康成「東海道」論……………丸山絵梨奈 …… 153
—〈文献引用〉を手がかりに—
- 線描の自由……………服部 訓和 …… 166
—寺山修司「忘れた領分」、一九五〇年代のパウル・クレー、
谷川俊太郎「愛 paul klee に」
-

2023年3月

追悼 胸組美佐子さん

昨年九月八日、本学大学院人文社会科学研究所文芸・言語専攻博士課程の院生でした胸組美佐さんが急逝されました。

胸組さんは、この『稿本近代文学』については、指導教員でもあった新保邦寛先生のご退職号のいっさいを取り仕切ってください、またその後も編集部を中心となって、長く支えてくださいました。この雑誌が、院生たちの研鑽の場として今もしっかりと持ちこたえることができているのは、胸組さんが尽力してくださったおかげです。学生たちからはもちろんのこと、修了生や教員からも厚く信頼され、人をこまやかに気遣うことのできる優しい人柄でした。

胸組さんは、歴史的にはまだ新しい研究学園都市に生まれ育った最初の世代でもあり、出会った頃、筑波大との縁の深さを話題にしたことを覚えています。理系重視の特殊な環境のなかで、むしろ文学とともにあることをこの上ない喜びとしていたことがよく伝わってきました。大学院入学以来、安倍公房の文学と思想について直に研究を続けられ、これから博士論文をまとめようという矢先のことでしたので、本当に残念でなりません。胸組さんの研究への思い、文学への情熱を、わたしたちが繋いでいけるよう、ただ願うばかりです。

思いは尽きることがありませんが、美佐子さん、どうぞ安らかにお眠りください。

馬場 美佳

胸組美佐子さんの思い出

胸組さんは先輩らしい先輩でした。私の日記には授業やゼミで胸組さんからいただいたご助言が夥しく残っています。「扱う素材の量が結論に対して足りていないのではないか」「引用する用例が序列化されていない」。発表者が事前に共有したテキストをどの院生よりも丹念に読み込んでくるのも胸組さんでした。胸組さんの存在に助けられた院生は私だけではないはずです。一方の後輩たちは、テキストもレジュメも一筋縄ではゆかない胸組さんの安倍公房の発表に質問をするとき、「理解できているか不安なのですが……」を枕詞にするので、胸組さんを恐縮させてしまうのでした。

院生室や筑波大学日本文学会の仕事でも助けていただきました。規則や慣例をよく記憶なさっていて、不審点があればすぐ教えてくださりました。終始動じない態度に救われる思いがしたことが何度もありました。

新潟の学会に参加した際の宴席で、小野不由美の小説が好きという共通の趣味がわかって嬉しく思ったことがあります。また、当時ようやく日本で翻訳された劉慈欣『三体』の読書会を他領域の院生や短期留学生とともに開催したのも忘れがたい思い出です。ご生前のお姿を偲びながら、謹んで哀悼の意を表します。

堀下 翔

編集後記

ここ数年、博士後期課程に在籍する院生数の減少により、掲載論文数は研究誌として刊行できる最小限の二本でどうにか維持してきました。いつの間にか昔のように、多くの論文を掲載して活気のある誌面を復活させることが担当者の目標になりました。そしてこの目標は、図らずも離任前に、達成できそうな兆しが見えてきました。今年は院生の論文三本に加え、修了生の論文二本も預かっており、二〇〇ページ弱の大冊になりました。編集作業にかける時間は倍増しましたが、やりがいもそれ以上に増えました。

しかし、今年は嬉しいことばかりではありませんでした。前任の胸組美佐子さんを亡くしてしまいました。胸組さんは担当者が入学する前から編集部の仕事を一任されており、本誌のレイアウトや編集上の注意点などを一から作り上げられました。担当者が引き継いでから、足りないながらも今まで順調に編集し続けられてきたことは、胸組さんが丁寧かつ詳細にご指示くださったおかげです。そのためにも、今回のような大冊ができたことは、まずは胸組さんに報告したかったです。もとよりささやかな喜びではありますが、それを分かちあえないことは無念でなりません。

本集が、天国にいる胸組さんに届くことを祈念します。

『稿本近代文学』編集部一同

〈第四六集執筆者紹介〉

堀下 翔 筑波大学大学院博士課程人文社会科学研究所

文芸・言語専攻日本文学領域五年次

植田理子 淑徳大学非常勤講師

(二〇二一年度単位取得後満期退学、二〇二〇年度博士号取得)

章 瑋 筑波大学大学院博士課程人文社会科学研究所

文芸・言語専攻日本文学領域五年次

丸山絵梨奈 筑波大学大学院博士課程人文社会科学研究所

人文学学位プログラム文学サブプログラム三年次

服部訓和 日本大学商学部准教授 (二〇〇八年度修了)

今回、査読にご協力いただいた方々は以下のとおりです(名前順)。

王菁潔(二〇一四年度修了)、姜惠彬(二〇一六年度修了)、佐藤元紀(二〇一四年度修了)、野口尚志(二〇一二年修了)、馬場美佳(二〇〇三年度修了)、渡邊史郎(二〇〇二年度修了)

〈投稿要領〉

- 一、『稿本近代文学』は広く日本近現代文学に関する学術論文を掲載します。
- 一、項目は、「論文」「寄稿・書評等」を基本とします。
- 一、分量については、いずれの項目についてもとくに規定を設けません。但し「論文」は一万二千〜一万六千字（四百字詰原稿用紙換算三〇〜四〇枚）程度を目安とします。
- 一、締め切りは、毎年度十二月末です。
- 一、投稿を希望する項目名を指定の上、データファイルを編集部までメール・郵送等にて送ってください。また、論文末に執筆者のご所属・肩書等を記載してください（つくばリポジトリの「その他の寄与者」欄にも掲載されます）。
- 一、「論文」については、一名以上による査読を行い、掲載の可否を決定します。査読については査読者名を公開する記名式です。査読は特段の事情がない限り近代部会OB・OGが行います。
- 一、掲載にあたり、執筆者による校正は二回までとします。
- 一、『稿本近代文学』は、筑波大学附属図書館管轄の「つくばリポジトリ」によって公開します。公開時期は当該年度の三月末です。リポジトリ上での検索キーワード、英文タイトル、要旨・抄録の公開も希望される場合は、お知らせください。
- 一、他詳細については、編集部まで直接お問い合わせください。

連絡先

「筑波大学日本文学会近代部会『稿本近代文学』編集部」

〒305-8571

つくば市天王台 筑波大学大学院 人文社会科学研究所

文芸・言語専攻内

メールアドレス kounon.tsukuba@gmail.com

公開サイト「つくばリポジトリ」内

「学内定期刊行物」(https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/?page_id=78) ↓

「稿本近代文学」

稿本近代文学第四六集

二〇二三年三月三十一日発行

筑波大学日本文学会近代部会

〒305-8571 茨城県つくば市天王台

筑波大学大学院人文社会科学研究所

文芸・言語専攻内 馬場研究室